



今月の公開授業

「葛藤」が「深い学び」を生む ～討論授業の取り組み～

～公民科～

相道 孝志 教諭 1年 3組

「正解のない問い」でも答えを選択する必要があるとき、そこに「葛藤」が生まれ、そこから「深い学び」につながる。

今回は、生徒の中に生まれた「葛藤」が、討論を通して「深い学び」につながっていく、授業実践でした。テーマを「長崎大学が今後、教職員を採用する際に、喫煙者を採用しない方針を明らかにしたが、これは適切か不適切か」と設定し、以下の通り授業は進められました。

- ① テーマに関する新聞記事などの文章を読み、適切・不適切を選択し、その根拠を5分で書く
- ② 各自の適切、不適切の立場について1回目の表決
- ③ 班を作り、適切・不適切両方の根拠を考える
- ④ 各班の意見を板書・発表
- ⑤ 教員が意見を集約し、論点を整理
- ⑥ 2度目の表決を行い、振り返りと感想

この授業では、テーマ設定が最も大切であり、最も難しいそうです。しかも、生徒自身の常識の範囲内で考えられるものでなければなりません。基本的にはネット上の新聞記事などから選んでいるということでした。両方の立場を考えることで、最終的には「自由」について考えさせることが、この授業の「ねらい」です。生徒の意見は様々な視点から考えられており、おもしろい意見も出てきました。また、1度目の表決では適切・不適切が半々に分かれたのですが、各班の意見を集約後の2度目の表決では、ほとんどの生徒が「不適切」に意見が変わったという興味深い結果となりました。授業の最後には、同じテーマで書かれた3年生の意見を読み、生徒は学年の異なる人の意見を知ることができました。

生徒の振り返りでは

- ・いろんな意見が聞けておもしろい
- ・人の意見によって自分の意見が変わるのがおもしろい
- ・意見を決めるのが難しい問題だった

などの感想がありました。

【ふたりごと】

- ・教育実習生の話を聞いたり、授業を見たりすると、自分にはない部分や考え方、新しい手法などが見えてきてとても刺激になります。新任の頃の気持ちを思い出してがんばります！
- ・今回はPT会議に参加することができず、本当に残念でした。同時に、PR会議に参加し他教科の先生方と話をする事で良い刺激になるということを改めて実感しました。私も初心に戻ってがんばります。

第3回PT会議より

6/7(金) 17:00～被服室にて、第3回授業改善PT会議を行いました。PTメンバーに加え、教育実習生の方々にも参加していただき、意見交換等を行いました。

まず、先月の通信にありました福島先生の授業をもとに、「思考のツールとしての数学」という題材でお話を頂きました。日常の事象や問題をいかに数学の世界に落とし込んで考察・解決していくかということが、これまで以上に大事になってくるという内容でした。その後の質疑応答では、数学だけではなくすべての教科で文章や状況を読み取った上で表現したり、数式化したりする必要が増えてきている。読解力が必要であり、これはどの教科の授業でも意識して育てていくべきであるというように議論が深まりました。

次に、教育実習生と現役の先生方とでグループを組み、「今なら先生の気持ちかわかる？授業を受けることと授業をすることの違い」「今と昔の違い。こんな授業が良かった・悪かった。」という題材でざっくばらんに話し合いを行いました。

- ・英語の対話が非常に増えている
 - ・生徒に考えさせる時間を多く取っている(社会)
 - ・生徒の興味を引く方法や関係性の作り方を知りたい
 - ・どの生徒のレベルで授業をするかが難しい
 - ・高校時代は板書が中心だったが、パワーポイント等を使った授業が増えていてわかりやすかった(絵がきれいなど)
- 大学の授業のようにパワーポイント使う場合は、

最初にレジュメを配ってそこに書き込むようにしてはどうか

- ・50分は長いと感じていたが、考え始めると短く感じた
- といったような意見が出ました。また、逆に大学での先進的なグループワークについて教育実習生から学ぶという時間もありました。

また、授業名人である野村幸史先生から「すでに手遅れ？4月、5月頃の指導について」という題で研修がありました。教育実習生や若手の先生方には参考になるテクニックなどが多々あり、大変参考になる内容でした。気になる方はぜひ野村先生にお話を聞いてみてください！

